

中野区文化芸術振興基本方針（素案）について

区は、これまで第3回定例会において中野区文化芸術振興基本方針（骨子）について報告を行うとともに、区内の文化・芸術団体に対しヒアリングを行ってきた。

この度、第3回定例会における意見や文化・芸術団体とのヒアリングから得た意見を踏まえ、本方針における素案を整理したので報告する。

1 中野区文化芸術振興基本方針（素案）

別紙1のとおり

2 文化芸術振興に対する主な意見の要旨（18団体、関係者3人）

これまで、音楽関連4団体、舞踊関連3団体、演劇関連3団体、伝統文化関連4団体、芸能関連1団体、お笑い関連1団体、絵画関係1団体、ダンス関連1団体と関係者3人とのヒアリング及び区民と区長のタウンミーティングにおいて意見を聴取した（別紙2のとおり）。

3 今後のスケジュール（予定）

令和5年 1月～ 意見交換会の実施（3回実施予定）
・12日（南中野区民活動センター）
・14日（大和区民活動センター）
・その他、子ども・若者を対象として実施予定
3月 基本方針案作成（第1回定例会報告）
基本方針策定

中野区文化芸術振興基本方針（素案）

第1章 文化芸術振興基本方針策定の趣旨

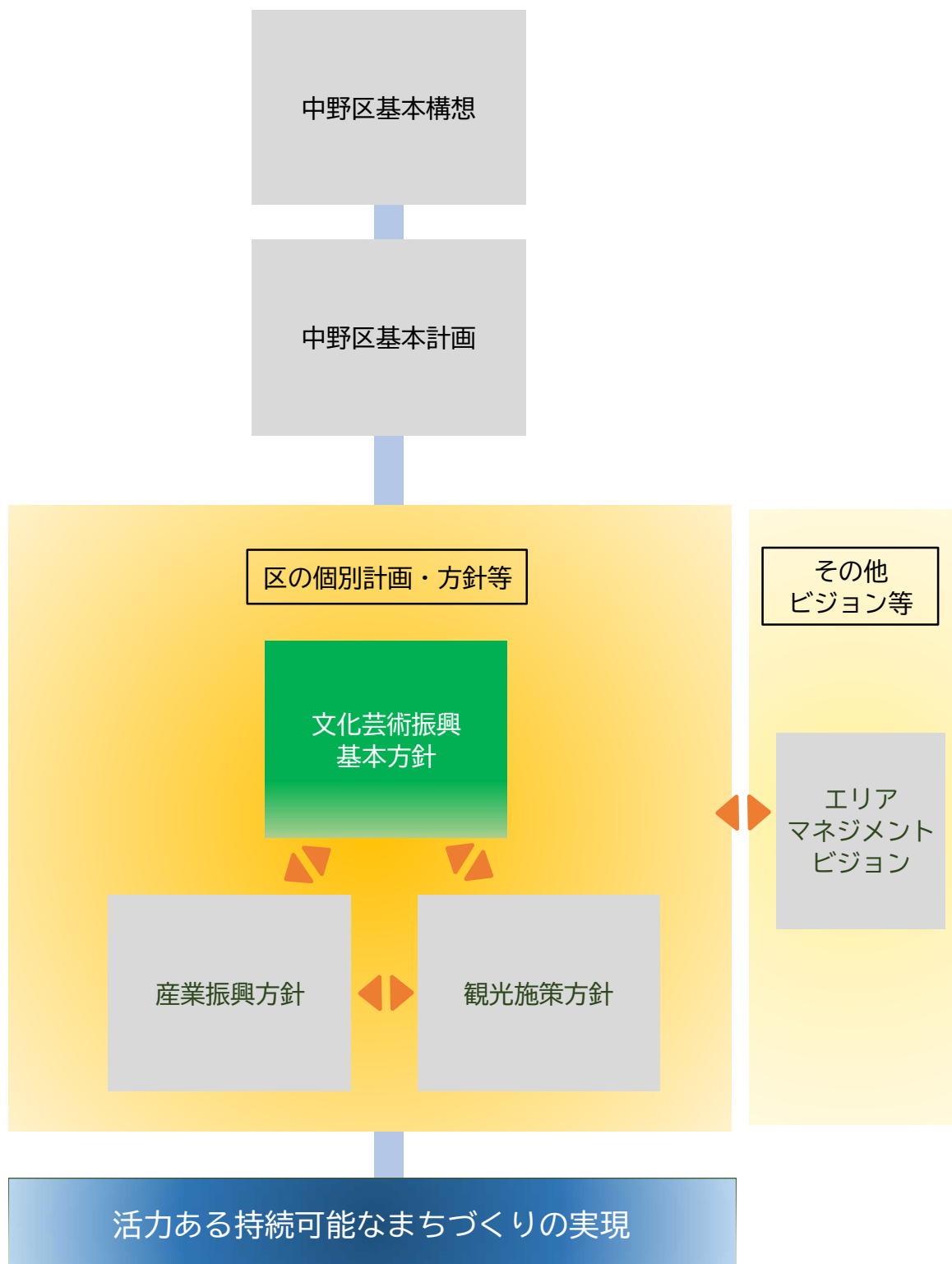
「文化芸術基本法」前文には、「文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するもの」と定められています。

区は、2021年3月に中野区基本構想（以下、基本構想）を改定し、10年後に目指すまちの姿「つながる はじまる なかの」における「(1) 人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち」のなかで、目指すまちの状態を「まち全体を舞台に、中野ならではの伝統・文化や豊かな発想から生まれる遊び心ある活動が広がり、誰もが身近に親しみ、表現できる環境が整うことで、多くの人々が訪れ、にぎわいにあふれています」と描き、文化・芸術をまち全体に展開していく方向性を示しています。

また、2021年9月に策定した中野区基本計画（以下、基本計画）では、基本構想で示したまちの姿を実現するため、施策の方向性と主な取組についてまとめるとともに、特に重要なテーマについて、重点プロジェクトと位置づけ施策を体系化しています。そして、文化・芸術については、プロジェクトのひとつとして活力ある持続可能なまちの実現を設定し、地域経済の回復とまちのブランディングによる産業の活性化を進めていくなかで、文化・芸術に親しめる環境づくりや文化・芸術事業の誘導、発信拠点の形成などを関連させながら、今後のまちづくりを進めていくこととしています。

本方針は、関連所管が策定する方針や計画との連携も踏まえつつ、基本構想で示したまちの姿や基本計画における基本的施策を推進し、本区の文化・芸術振興の発展につながる取組の方向性を明らかにすることを目的として策定します。

基本構想・計画・方針の相関図



第2章 中野区の文化・芸術を取り巻く現状と課題

1 社会的背景

- (1) 少子高齢化、グローバル化の進展
- (2) 情報通信技術の急速な発展と普及による多様で広範な文化・芸術活動の展開（SNS、動画配信など）
- (3) 持続可能でよりよい社会の実現を目指す国際目標である SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた国や企業、自治体等のすべての主体による取組の推進
- (4) 国による文化・芸術に関する法整備、戦略、計画の整備（※）
- (5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた新たな生活様式への対応、社会経済活動の再開、活性化促進の必要性

※観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野と連携しつつ、文化・芸術により生み出される様々な価値を文化・芸術の継承、発展及び創造に活用するため、「文化芸術基本法」が2017年6月に成立しました。

※その他、国は、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進を目的とした「文化財保護法」、文化芸術産業の経済規模の拡大に向けた取組の推進、文化財の着実な継承と発展をめざした「文化経済戦略」、文化・芸術の社会包摂機能を生かした心豊かで多様性のある社会の実現をめざした「文化芸術推進基本計画」を策定しています。

2 区の文化・芸術の特徴・現状

- (1) サブカルチャーの聖地といわれる「中野ブロードウェイ」、アニメ制作会社の集積、小劇場や個性的な映画館、劇団の存在、「なかの芸能小劇場」における若手芸人によるお笑いライブの活発な活動など、アニメ・サブカルチャーの地として高い知名度をもち、魅力的な地域資源が多く存在しています。
- (2) これまで多くの著名アーティストがコンサートを開催してきた区の代表的なコンサートホールであり、日本のポピュラー音楽の発信地として、全国的な注目を受けながら歴史を刻み続けてきた「中野サンプラザ」は、今後、中野駅新北口駅前エリア再整備のなかで、新たな施設として生まれ変わる予定です。同施設は、ホール以外にも会議場、宴会場として多くの区民や企業などの会合、交流の場として利用され、特徴的な施設の外観は、多くの人々の印象に刻まれています。
- (3) 国の名勝指定である中野区立哲学堂公園などの有形文化財、江古田の獅子舞、鷲宮囃子などの無形文化財、東京手描友禅や和人形などの伝統工芸、人間国宝である梅若実氏に代表される能など、多くの伝統文化が存在しています。

- (4) 区民活動センターや高齢者会館では、地域まつりにおける展示や発表など、地域ごとに区民主体の文化・芸術活動が行われているほか、区の文化施設である「もみじ山文化センター（なかのZERO）」や「なかの芸能小劇場」、「野方区民ホール」などといった拠点施設においても、文化・芸術に関連した発表や交流などの活動や事業が行われています。
- (5) 中野通り桜まつり、チャランケ祭りや中野チャンプルーフェスタ、都立家政の阿波踊りなど、地域の商店街や町会・自治会などによる地域に根付いた特色ある活動が活発に行われています。
- (6) 障害の有無を超え、才能豊かな創造と多様な価値観に出会うことができるアール・ブリュットと商店街とが結びつき、作品を展示する例や、アーティストや区民によるまちなかの壁画制作活動（ミューラルプロジェクト）、商店街のアーケードにおける小・中学生の絵画作品の展示など、地域の様々な人々を巻き込んだ多様性のある文化・芸術活動が行われています。

3 実態調査から見える課題

※調査は「中野区文化芸術活動に関する実態調査」（2020年3月）より

(1) 文化芸術に触れ、活動する機会の充実にに関する課題

①区民の需要が高い一方、満足度が低い

「文化芸術に触れたり、活動することの重要性」について、「大切だと思う」との回答は92.5%である一方、「中野区の文化的環境に満足している」については、「満足している」16.1%と低い水準となっています。

②文化芸術活動を行う機会が少ない

「最近1年間に行った文化芸術に関わる活動」について、「特に行ったことはない」は60.8%で、その理由については、「行く機会を持てなかったから」（44.0%）が最も多くなっており、区民にとって文化芸術活動を行う機会が十分ではないことがわかります。

③区内の施設利用率が低い

「文化芸術鑑賞に利用する施設」について、「区外民間施設」が49.8%で最も高く、次いで、「区外公共施設」（37.5%）、「もみじ山文化センター（なかのZERO）」（32.8%）である一方、「区内民間施設」については8.1%と低く、区外の施設と比較し利用率に大きな差が生じています。

(2) 情報発信力の強化に関する課題

①通信技術を生かした情報発信力が弱い

「文化活動に関する情報の入手方法」について、「公式ウェブサイト」は23.8%であり、トップの「街中の広告・ポスター等」（51.1%）に比べ低く、インターネット等を通じた情報発信力が弱いことがわかります。

②伝統文化の発信力不足

「伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在が、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りになる」について、「思う」が85.6%と高い水準である一方、「最近1年間に直接鑑賞した文化芸術」では、「歴史的建物や遺跡などの文化財」は、41.6%で高いが、「能楽や歌舞伎などの伝統芸能」は12.0%と低い水準となっており、伝統文化の魅力に触れる機会が少ないことが推測されます。

4 区の現状や区民意見から見える課題

(1) 文化・芸術の他領域との連携及び文化・芸術団体同士の協働に関する課題

①他領域との交流、結びつきが弱い

中野区は、アニメ・サブカルチャーの聖地として広く知られている一方で、地域の課題解決や活性化、つながりの一翼を担っている町会・自治会や商店会などがあります。文化・芸術活動とこれらの地域団体の結びつきが弱く具体的事例が乏しい状況です。

②文化・芸術活動団体同士の協働が少ない

区内の小劇場や劇団、多く在住することが想定される若手お笑い芸人や演劇関係者と協働した活動事例、交流事例が少ないことなど、区の地域特性が文化・芸術の創造性と十分に結びついていません。

(2) 文化・芸術活動場所の制限に関する課題

音楽やダンス、演劇など、大きな音や振動が生じる場合がある文化・芸術活動は、音漏れ等により、通常の貸し室利用では活動が制限されます。現状では、区有施設全般において防音などが整備された場所は少なく、一部の文化・芸術団体は、活動できる場所が限られている状況となっています。

(3) 文化・芸術団体の活性化に関する課題

区民の文化・芸術団体の活動の活性化には、普段の活動とともに区民が文化・芸術団体の活動に触れ、文化・芸術活動に参加するきっかけとなる発表の機会が重要ですが、現状においては、区の文化・芸術団体の発表の機会が経常化しており、参加する団体や区民が、限定的となっています。また、各団体が主催する発表についても十分な発信ができておらず、区民全体に情報が届いていません。

(4) 若い世代に対する機会の充実に関する課題

子どもが、文化・芸術に等しく触れ、体験する機会が少ないため、文化・芸術を自由に感じ、心の豊かさを育むことができる環境整備が必要です。また、発表の場についても若い世代が、自身の文化・芸術活動を発表する機会が十分にあるとは言えない状況です。

(5) 中野駅周辺の整備期間中のにぎわい、魅力づくりに関する課題

「中野サンプラザ」は、2028年度に新たなシンボル拠点として生まれ変わるために2024年から解体される予定となっています。これまで文化・芸術の一時代を担ってきた区の代表的なランドマークが解体され、新たなシンボルの竣工までの期間においては、まちのにぎわい低下を防ぎ、新たな発展へとつなげていくための取組が求められています。

【課題のまとめ】

1 社会的背景に関する課題

- (1) 子どもの育成、高齢者や外国人の生きがいにつながる展開
- (2) 情報通信技術の活用
- (3) SDGs との関連を意識した取組
- (4) 国や都の施策との連携
- (5) 感染症の拡大への対策を踏まえた新たな生活様式への対応

2 区の文化・芸術の特徴・現状に関する課題

- (1) 魅力的な地域資源の活用
- (2) 中野サンプラザをレガシーとして活用
- (3) 伝統文化の魅力発信と活用・継承
- (4) 区民主体の文化活動の発展
- (5) 特色ある地域の活動の活性化
- (6) 多様な文化・芸術活動の発信・支援

3 実態調査から見える課題

- (1) 文化・芸術に触れ、活動する機会の充実
- (2) 情報発信力の強化

4 区の現状や区民意見から見える課題

- (1) 区内関連団体との協働
- (2) 文化・芸術活動場所の整備
- (3) 文化・芸術団体の活性化につながる発表機会の創出と支援
- (4) 若い世代に対する機会の充実
- (5) 中野駅周辺の整備期間中におけるにぎわいの維持

第3章 文化・芸術の推進に向けた基本的な考え方

1 基本となる方向性

<目指す将来像>

つながり、ひろがる 創造性あふれるまち なかの

区民一人ひとりが身近に文化・芸術に親しみ、表現できる環境のなかで、創造性や心のゆとり、楽しみが生まれ、心豊かな暮らしが実現しています。

また、すべての区民が、中野の特徴である多様性や文化・芸術の独自性に誇りを持ち、文化・芸術を通じてつながりを広げることで、まちのいたるところに様々な新しい活動が生まれ、その活動や中野の文化が広く発信されることで、まち全体がにぎわいと創造性にあふれています。

(1) 多様な「創造性」があふれるまち【環境を整備し、機会を創出する】

自ら文化・芸術活動を行う人が活躍できる環境を充実させるとともに、交流機会を生み出すこと、また、すべての区民が気軽に文化・芸術に親しみ、その魅力に継続的に触れる機会を創出することで、区民一人ひとりの個々の感性や創造性を育み、生活を豊かなものにしていきます。

(2) つながり広がる「創造性」【魅力を伝え、つながりを広げる】

文化・芸術の魅力が情報発信の強化により、まちの至るところに浸透し、人々の間につながりが生まれるとともに、文化・芸術のもつ多様な価値や創造性が、観光や産業などと多方面において結びつくことで、新たな価値の創造につなげ、中野の地域資源を一層磨き上げていきます。

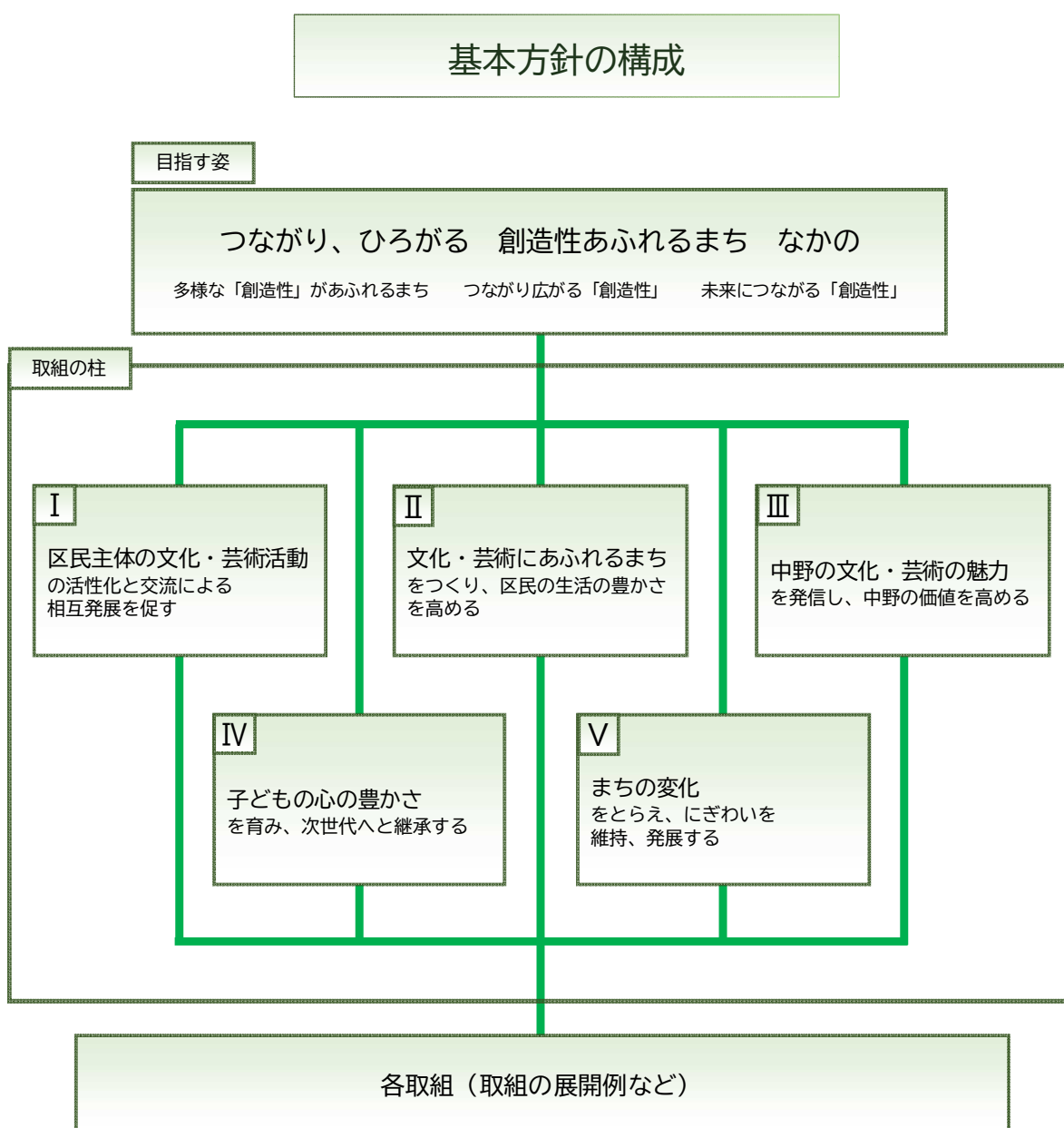
(3) 未来につながる「創造性」【巻き込み、次世代へとつなぐ】

まちの変化と連動して、まちのにぎわいをつくり出すことで、文化・芸術の継承、更なる発展、創造を生み出します。また、中野のまちのあらゆる主体を「つながり、ひろがる 創造性あふれるまち なかの」に巻き込んでいくことで、まちの魅力をさらに高め、未来を担う子どもたちへと引き継いでいきます。

2 取組の柱

「つながり、ひろがる 創造性あふれるまち なかの」の実現をめざし、次の5つの柱で施策を推進します。

- I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す
- II 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める
- III 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める
- IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する
- V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する



第4章 今後の取組の方向性

I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す

区民が主役の文化・芸術活動の活性化と文化・芸術を通じた交流を進めることで、中野からはじまる新しい文化・芸術が誕生する契機や多様な文化的背景を持つ人々の相互理解が深まる機会を創出するなど、あらゆる文化・芸術の相互発展を促します。

●文化・芸術活動を行う団体等への支援充実

まちの魅力向上に寄与する多様な文化・芸術活動とその担い手である区民や団体等へ支援を行うことで、区民が主役の文化・芸術活動の活性化を図ります。

<取組の展開例>

- ・区民が主役の文化・芸術団体のコンペティション事業等の実施（指定管理者事業）
- ・文化・芸術団体に対する助成の推進
- ・文化・芸術の活動発表の場を広げるための規制緩和の検討
- ・（仮称）文化芸術振興基金の検討

●区内の文化・芸術施設をはじめとした施設全般の利用促進

文化・芸術施設をはじめとして、区民活動センターや高齢者会館などの施設全般の機能性及び利便性の向上と区内の文化施設情報の発信強化などによる区民の利用促進を図ります。

<取組の展開例>

- ・区文化施設の改修による機能性と利便性の向上
- ・各施設における防音機能の強化など音楽やダンスができる環境の整備
- ・区内にある施設全般の情報を集約した情報サイトの構築
- ・ユーザビリティを重視したわかりやすい予約システムの整備

●障害者や外国人の文化・芸術活動支援

文化・芸術の持つ社会的包摂の機能に着目し、他者と共感し合う心を育み、区民の障害や多文化に対する理解を促進します。

<取組の展開例>

- ・障害者や外国人の文化・芸術活動の交流や発表機会の充実
- ・「アトリエ pangaea（ぱんげあ）」の展示会をはじめとしたアール・ブリュットの推進（指定管理者事業）

●多様な主体のマッチングによる交流機会の促進

文化・芸術の創造性や表現性をきっかけとした区民の相互交流を図るため、多様な主体同士のマッチングを促進します。

<取組の展開例>

- ・もみじ山文化センター（なかの ZERO）旧レストランススペース等を活用し、ワークショップなどを通じた区民や団体の交流機会の創出（指定管理者事業）
- ・地域が求める文化事業と文化・芸術団体やアーティストとのマッチング

●区内に住み、地域で活躍するためのアーティストへの支援

文化・芸術活動を志すアーティストが地域で活躍できるよう、地域に根ざした活動の支援を行います。

<取組の展開例>

- ・地域における発表機会の創出（指定管理者事業）
- ・商店街等における文化・芸術事業とアーティストとのマッチング支援

Ⅱ 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める

誰もが時間や場所にとらわれず、身近に文化・芸術に触れ、楽しみ、感動することができるよう、まちのいたるところに文化・芸術があふれる環境づくりを進め、区民の生活を心豊かで潤いのあるものにしていきます。

●パブリックアートの推進、観光事業との連携

中野の強み、資源を捉えた情報発信を強化することで、まちのいたるところに文化・芸術があふれる環境づくりを進めていきます。

<取組の展開例>

- ・プロのアーティスト、市民活動など、様々なケースを想定した壁画プロジェクト（ミューラルプロジェクト）の推進
- ・個店のデザインや空き家利用も含めたパブリックアートの推進
- ・（仮称）中野文化芸術振興大使の検討

●文化・芸術と区民をつなぐ派遣事業の推進

子どもから高齢者まで障害者の有無にかかわらず、より多くの区民が身近に文化・芸術に触れられるよう、文化・芸術団体や人材などを地域へ派遣する事業を推進します。

<取組の展開例>

- ・区民活動センターなど区有施設における派遣事業の展開
- ・新区役所など区有施設におけるアール・ブリュットの展開

●デジタル技術、インターネット活用充実

インターネットのコンテンツの活用などにより、いつでも、どこでも文化・芸術を楽しめる機会を創出します。

<取組の展開例>

- ・デジタル化した区内アート作品や音楽に触れる機会の検討

●消費活動に着目した商店街との連携

コミュニティ拠点である商店街とのコラボレーションによる発信力強化など区民の暮らしや消費活動と組み合わせた文化・芸術活動の展開を支援します。

<取組の展開例>

- ・お笑い芸人などとコラボレーションした商店街イベントなどによる消費喚起

Ⅲ 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める

中野の独創性と魅力にあふれた文化・芸術を広く発信し、区内外の人々に中野の文化・芸術の魅力を広め、新たなつながりが生まれる環境を整備することで、中野の価値や区民の誇りを高めていきます。

●地域資源の発掘と発信による新たな価値の創造

アニメやサブカルチャー、お笑いなどに代表されるエンターテインメント文化など、多様性にあふれた中野の地域資源の発掘、周知を行うとともに、産業活性や他領域の活動と結びつけを行うなど、文化・芸術を基軸とした相乗効果を生み出し、新たな付加価値を創造します。

<取組の展開例>

- ・地域資源発掘・情報発信による事業
- ・区内団体・企業等と連携したアニメ・サブカルチャーなどのコンテンツを活用したイベント等の取組を創出
- ・インフルエンサーによる情報発信
- ・中野区認定観光資源の見直し

●伝統文化の保存と魅力の発信

区内に数多く存在する有形・無形文化財や伝統文化の魅力を多くの区民に伝え、継承や発展につながるよう、発信の強化と活用を促進します。

<取組の展開例>

- ・旧野方配水塔、旧中野刑務所正門、江古田の獅子舞、鷲宮囃子、能など、有形・無形文化財や伝統文化の魅力の発信と活用
- ・歴史民俗資料館における展示や各種イベントの開催
- ・哲学堂公園保存活用計画に基づいた公園の再整備
- ・文化財のデジタルアーカイブ化の検討
- ・棟方志功の功績や魅力の発信と活用

●広域連携による文化・芸術発信の強化

中野らしい多様な文化を区内外へ発信し、中野のブランド力とシビックプライドの向上につなげます。また、近隣区との広域連携を図ることにより事業の相乗効果を生み出します。

<取組の展開例>

- ・アニメ等、地域ブランディング事業の推進
- ・インターネットやSNS等を活用した情報発信
- ・近隣区との連携関係の構築
- ・文化・芸術作品のふるさと納税返礼品への応用の検討

IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する

未来を担う子どもたちが、中野の多様な文化・芸術に触れる機会を増やすことで、子どもの豊かな心と感性を育むとともに、伝統的な文化・芸術をはじめとした良質な文化・芸術を次世代へ継承する機会をつくり、文化・芸術の持続的な発展につなげます。

●文化・芸術に触れる、始める、発表する機会の充実

学校等と連携しながら、子どもが良質な文化・芸術に親しめる環境を創出し、活動を始めるきっかけづくり、発表機会の充実を図ります。子どもが自由な創造性を自ら育てることができる環境を整備します。

<取組の展開例>

- ・小・中学校における文化・芸術活動の鑑賞機会、体験活動の充実
- ・子どもを対象とした文化施設事業の充実（指定管理者事業）

●伝統文化と文化財に触れる機会の充実による文化・芸術の発展と継承

区民が伝統文化に触れ、その魅力を感じることができる機会を創出します。また、区内に多くある文化財を活用し、区民の文化財への興味を高め、郷土愛を生み出します。特に、若い世代の伝統文化への理解を深めることにより、伝統文化及び文化財の活動を地域に根付かせ、将来の発展と次世代への継承を支援します。

<取組の展開例>

- ・歴史民俗資料館や文化財保有施設、区内社寺、伝統文化保存会等と協働した若い世代を対象としたイベントや体験会等の実施
- ・子どもを対象とした文化施設事業の充実（指定管理者事業）

V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する

中野駅周辺まちづくりにおけるエリアマネジメントとの連動や最新技術を生かしたコンテンツの活用など、ハード、ソフトの両面から整備を進めることで、中野駅新北口駅前エリア再整備期間中も中野駅周辺のにぎわいや魅力を維持し、将来的には文化集積地へと発展させます。

●中野駅周辺まちづくりと連動した新たな発信拠点の創造

中野駅新北口駅前エリアの再整備とエリアマネジメントを連動させるとともに周辺商店街等とも連携し、文化施設にとらわれない発表の場を創造することで、身近に文化・芸術に触れる機会を増やし、文化・芸術を応援する風土をつくり出します。

<取組の展開例>

- ・中野駅新北口駅前エリアに整備するシンボルタワーや多目的ホールにおける新たな文化・芸術の発信
- ・まちづくりで整備される公共空地を活用した文化・芸術活動の誘導
- ・文化・芸術活動をキーワードとしたエリアマネジメントの推進支援

●まちの変化を着実に捉え、にぎわいを持続するための取組の推進

中野区役所及び中野サンプラザは、竣工から半世紀近くを経て更新の時期を迎えており、中野駅周辺では複数の大規模な再整備が行われています。このような変革期において、文化・芸術、産業、観光に関して面的な連携を図ることで、まち全体の更なる活性化に繋がります。

<取組の展開例>

- ・中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備事業施行者との協力体制の構築
- ・中野サンプラザの3次元データ化

●庁内体制強化と産学公金の連携による推進体制の強化

文化・芸術、産業、シティプロモーション、観光、エリアマネジメントを総合的に一体的にとらえ、持続的なまちの活性化を目指すため、区の体制強化と産学公金の連携による推進体制を整えます。

<取組の展開例>

- ・区職員の育成を含めた体制強化と広範なステークホルダーとの連携の検討

第5章 文化・芸術振興の推進にあたって

本方針で示した方向性を具体化していくためには、区の特徴となる資源の活用、中野駅周辺再整備との連動とともに様々な組織、団体と連携しながら進めていく必要があります。

区は、以下の点に留意しつつ、各施策の効果を最大限に引き出し、実施していきます。

1 特色を生かすための地域資源の活用

中野が持っている特徴を踏まえて文化・芸術の推進を図っていくために、地域資源と中野の強みを整理分析し、幅広い視点で活用を検討していきます。

2 再整備と連動した中野ブランドの向上

中野駅周辺エリアを核として、文化・芸術振興等によるソフトのまちづくりと再整備に伴うハードのまちづくりを連動したシティプロモーションを進めることで、中野ブランドの向上につなげていきます。

3 施策展開に関連するあらゆる組織、団体との連携

産業、観光、まちづくり、シティプロモーション、福祉、教育などの関連所管や区民、文化・芸術団体等及び文化施設指定管理者、区外周辺地域を含めた広域連携も視野に施策展開に関連するあらゆる連携を進めていきます。

文化芸術振興に対する主な意見の要旨

※第3回定例会報告のものを含む

No	主な意見の要旨
「Ⅰ 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す」 に関連する意見	
1	音の出る楽器について、まわりを気にせずに練習できる場所が、区内にもっと増えてくれるとよい。(類似意見他3件あり)
2	無料アプリから簡単に施設予約ができるなど、より利用者が手間を感じない形で予約ができると良い。(類似意見他1件あり)
3	発表会などを実施する際、自分の団体のみの周知では発信力に欠けるので、区民に向け広くPRできる媒体があると良い。(類似意見他1件あり)
4	大きな発表会を企画する際、運営側のスタッフや資金が不足する場合がある。
5	団体の活動を活性化するためには、「普段の活動」→「発表」→「参加者の増加」→「普段の活動の活性化」といった流れをつくっていくことが大切。その中で区民や団体が興味を持つような発表会があると良いのではないかな。
6	プロフェッショナルなものを呼び込むより、区民団体が活発に活動し、その中で文化・芸術に関わる区民が増えていく、といった流れをつくっていくことを優先するべきである。
7	各団体は、自身の活動で手いっぱいであり、自主的に交流しようとする意識はあまりないのではないかな。一方で交流の機会があれば、交流してみたいという気持ちもある。
8	異なるジャンルのコラボレーションについては、合う、合わないがあるが、それを見極めて行えば大きな効果を生むと考えている。(類似意見他2件あり)
9	活動機会や場所を広げていくことは必要である。そのきっかけをつくってもらいたい。
10	文化を楽しむことができる、文化がまちの風あいとして感じられるような振興であってほしい。(類似意見他1件あり)
11	まちの発展は大通りをつくることだけではなく、その周辺に人の生活が生まれることで発展したと言える。文化・芸術の展開についても同様に住む人たちの生活に届くような展開をしてほしい。

12	長く活動している団体の中には、活動や体制が硬直しており、新規会員も少なくなっているなど将来的に活動を継続できるか不透明な団体も多い。持続可能な団体の活動のあり方を考えていく必要がある。
13	文化・芸術活動は、人と人をつなげる力があり、地域において交流が広がるきっかけとなる。
14	発表の場としての施設の規模は、100～300席程度が需要が高いのではないかと。(類似意見他2件あり)
15	これまで行っていた事業も新型コロナウイルス感染症で中止となり、活動自体も休止状態である。この状況下でもできる活動の形や、収束後、以前のような活発さを取り戻すきっかけが必要である。
16	長く継続してきた伝統文化であっても活動できなければ、近隣住民に認知させず、理解も深まらないため、活動に支障が出てきてしまう。
17	中野の一番を決めるコンテストのような発表機会は参加者のモチベーションを刺激し、活動の活性化につながるのではないかと。
18	高齢者施設等へのアウトリーチ活動を実施しているが、文化・芸術は世代間の交流に効果的であると感じる。
19	発表の機会が充実していると活動のモチベーションにつながる。
20	若者が活躍できるイベントがもっとあった方がよい。(類似意見他1件あり)
「Ⅱ 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める」に関連する意見	
21	区民が参加する、体験するような文化・芸術の機会を、あらゆる団体を通じてつくってもらいたい。
22	発表は、例えば駅前など、行き交う人が何気なく触れることができる場所がもっとあるとよい。
23	もっと気軽に自由に発表できる場所が欲しい。
24	障害者にとって文化に触れられる機会が増えることで、それが社会参加へとつながるので、区として、そういったことに対する補助や建物のバリアフリー化などの配慮を手厚くしてほしい。
25	個店を活用した演奏会が盛況したという話があった。商店街など地域に密着した展開は、商店街と文化・芸術を行う者の双方にメリットが生じるのではないかと。

26	区民が体験する機会であるワークショップは団体側は広めたいと思う一方、実現が難しい。機会やきっかけなどの支援があると良いと感じる。
27	行われるイベントなどは、いかに愛着を持ってもらえるかが、発展するための鍵となるのではないか。
28	イベントなどについては、民間に協賛金を募るなどによる実施方法もあるのではないか。
「Ⅲ 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める」に関する意見	
29	中野区に限定するのではなく、他の区と一緒に実施する事業があっても良いと感じる。
30	区内の埋もれた人材を発掘しPRすることで、区民の興味を引き出していくことが大切である。
31	中野には、かつて中野に住み、離れた人をも惹きつける独特の文化と魅力がある。これまで築かれてきた中野の文化の魅力を活かしてほしい。
32	中野の文化・芸術を広く発信するプラットフォームがあると、区民がより中野の文化・芸術について興味を持ってもらえるのではないか。(類似意見他1件あり)
33	中野の文化・芸術を発信するようなサイトをつくるのであれば、ただ情報を掲載するのではなく、サイトの運営側が、魅力的な団体の活動を掘り起こし発信していく試みが必要。
34	ふるさと納税の返礼品として、例えば「アートチケット」として地域の文化・芸術に触れられる機会を返礼とするなども考えられるのではないか。
35	情報発信の手法について、サイトによる発信よりSNSの方が反応が良い。また発信にあたっては、頻度が重要である。(類似意見他1件あり)
36	文化・芸術に関する紙の情報誌が減少し発信機会が減っているため、広報の機会が生まれてくれると文化・芸術を担う方々も喜ぶのではないか。
「Ⅳ 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する」に関連する意見	
37	古典は日本の伝統的な文化の感覚や心に触れるよい機会である。中野には伝統的な能の文化もあるので、子どもが触れる機会を持つのが良い。

38	文化・芸術は、そこから何を感じるかは自由であり、自由に感じるからこそ文化・芸術の価値の一つである。文化・芸術を感じる心を育てていくことは心の豊かさにつながるのではないか。
39	子どもが体験できるような事業を持っている一方、一過性であり、それにより子どもの継続的な活動にはつながっていない。
40	学校単位では小規模となってしまう文化・芸術のジャンルは、地域単位で触れ合う機会をつくってみるのも良い。
41	伝統文化に触れるきっかけを増やしていかない限りは、その魅力は分かってもらえない。
42	小・中学校を巻き込み文化・芸術活動を支援することで、子どもたちの鑑賞機会に対する格差が生まれず、平等な支援につながる。(類似意見他1件あり)
43	若い世代の観客や創り手が増えなければ芸術は衰退していく。学校において年1回の芸術鑑賞教室などではなく複数回芸術に触れられる機会の創出や、地域でのイベント開催などを増やしてほしい。(類似意見他2件あり)
44	学校で行う事業は、担当の教師が異動してしまうと事業自体もストップすることがある。事業の意義や手続きをしっかりと引き継いでほしい。
45	子どもを対象とした事業は、参加しやすさやその後のサポートも含めるなど発展性も踏まえて検討して欲しい。